

令和6年度 山形県立荒砥高等学校 学校評価書

自己評価 達成度 5:きわめて達成度が高い、4:概ね達成できた、3:できた、できないが半々くらい、2:達成できないことが多い、1:ほとんど達成できなかった						次年度に向けて
重点目標		具体的目標	達成指標や方策など	達成状況	達成度	
1	「信頼され、前進する荒高生」の育成	① 自他の「いのち」を大切に、いじめのない、心身ともに健康な生徒を育てる。	・いじめや体罰のない学校づくりのために、年3回の実態調査を実施し、適時の指導に努める。 ・悩みや問題を一人で抱えることのないように、面談を適宜実施し、相談しやすい環境づくりに努める。 ・生徒会の「あいさつ運動」「リスペクト運動」や委員会の活動を通して、良好な人間関係づくりを進める。	○面談週間は5月と8月に設定し、十分な時間を確保することで生徒一人ひとりに向き合い目標や悩み等、状況を理解することができた。 ○面談週間の他にも学期末、その都度、個別面談を実施し、生徒理解に努め、教員間で情報共有し、良好な人間関係を構築した。 ○面談週間のみならず必要と感じた時に個別に面談を行い、コミュニケーションをとった。進路意識の高まりも見られた。夏休みに保護者面談も行い、情報共有や進路に対する考え方を共有できた。(2年次) ○年2回のいじめアンケートや面接週間、SC等によって相談しやすい環境づくりが行われている。 ○学校行事の運営は生徒会執行部を中心に「お互いを認め合う」企画を実施し、成果を上げる。 ○昨年度と比較して、歯科38.5%、視力23.9%と受診率が3年次を中心に向上した。 ○修学旅行や学校行事を通してコミュニケーション能力が向上した。 △言動に幼さがある生徒が一定数おり、その都度丁寧に指導し、少しずつではあるが成長が見られる面もある。	4.4	
		② 「凡事徹底」の下、基本的生活習慣を確立させ、自律と自立ができる生徒を育てる。	・さくら連絡網を利用した「健康チェック」を徹底し、自己管理能力を高める。また、生徒の状況を早期に把握し、問題等があれば、保護者と連携しながら対処する体制を整える。 ・「当たり前」のことが「当たり前」できるように、年次やクラスの指導を充実させ、自律心、自立心を養う。 ・生徒会が中心となって服装やマナー遵守を呼びかけ、違反0を目指す。	○クロムブックにさくら連絡網のアプリをインストールしたことで、登校前の健康観察の入力忘れの対応を改善できている。 ○生徒会活動、委員会活動、部活動等を通して積極的に取り組む場面が見られ、自律心、自立心を養うことができた。 ○生活・HR委員を中心に服装・身だしなみ点検やマナーアップ運動等を通して、生徒がルールやマナーを順守する機運が醸成されている。 ○生徒の自己管理能力や自己意識を高めることができた。 ○服装が大きく乱れることはなく、概ね落ち着いた状況を保っている。 △生活習慣の乱れや体調不良等や健康管理の拙さ等により、欠席・遅刻・早退がかさんでしまう生徒も見られた。	3.7	自己管理能力を高めるために、健康チェックの声掛けを継続する。
		③ 授業を第一に基礎学力を定着させ、発展的な学習にも主体的に取り組む生徒を育てる。	・全年次とも朝学習を定着させて基礎学力を養い、授業に向かう姿勢を高める。 ・教科・年次で連携し、課題提出100%を達成させる。 ・総合学科の特徴を活かした上位層への指導の充実を図る。また、進路希望に応じた個別指導を充実させる。	○朝学習はスタディサプリやコラムの感想を書く等の課題を提示し、生徒が集中して取り組む環境を作ることができた。 ○教科と年次が共通理解を図りながら連携し、粘り強く声掛け・指導を継続し、課題未提出の生徒への対応をきめ細やかに行うことができた。 ○早い時期に進路目標を明確にさせ、実現のための指導を行うことができた。 ○学習に意欲的に取り組む姿勢が徐々に高まりつつある。朝学習にも積極的に取り組んでいる。 ○読書強調週間では生徒の興味関心を高め、視野を広げることができており、落ち着いた学校生活を送ることにつながっている。 △上位者層への個別指導を実施し、成果も得ているが、生徒自身が高みを目指すという意識を育てることも必要である。	4.1	個々に応じた課題や進路情報を提示するなど、個別指導の充実を今後も継続していく。
		④ 特別活動、部活動、資格取得等に積極的に取組み、自己実現をめざす生徒を育てる。	・年次ボランティアの他にも自主的に1回以上のボランティアに参加する。 ・生徒会活動や学校行事等の特別活動に積極的に取り組ませる。 ・漢字検定、実用英語技能検定、数学検定、ビジネス文書実務検定、情報処理検定等の検定試に積極的に挑戦させる。	○教務課通信等で学校外学修(技能検定)の情報を発信し、各教科においても積極的に進めたことで、意欲的に挑戦しようとする生徒が多く、単位増に当たる上位資格を取得する生徒が昨年より増加した。 ○自主的なボランティアに、自主的に参加した生徒が多く見られ、複数回参加した生徒もいる。 ○ボランティアの申し込みを事業者と直接行う方法により、ボランティア担当の業務が軽減された。 ○図書委員会の読み聞かせ会などの永年の地域活動が認められ、文部科学大臣より表彰を受けた。 ○就職・進学指導においては全職員の協力により生徒の希望する進路を達成することができた。 ○紅花摘みボランティア、図書委員の読み聞かせ、産業まつりへの参加等により地域貢献の意識を高めることができた。 ○ボランティアへの参加率が高く、取り組みもよいとの言葉もいただいている。 △検定への取り組みはもう少し積極性がほしい。	3.9	・全員がボランティアに参加できるよう呼びかけを強化していく。 ・検定について年度初めの情報発信が効果的であったと考えられるため、今後も継続していく。 ・毎年土曜日に実施している町の除雪ボランティアを平日のLHR(2時間)+放課後に学校ボランティアとして実施できないかの検討する。
2	魅力ある学校の創造	①地域の教育資源やICT機器の活用を進め、総合学科の学びの充実を図る。	・教育課程を円滑、かつ効果的に運用し、授業改善を進め、学習効果を高める。 ・校内授業公開週間や公開授業研究を通して、主体的・対話的な学びを意識した授業方法を研究・実践していく。 ・ICTの効果的な活用方法の研修を深め、協働的・探究的な学びを推進する。 ・年2回授業評価を実施し、PDCAサイクルによる授業改善を進める。	○多様な選択群の中から、個々の進路希望や興味関心に応じた科目を選択できるよう、教育課程の変更を行った。 ○校内公開授業週間や公開授業研、ICTの研修等、各教科の授業研究や授業改善のための研修を実施できた。 ○クロムブックを活用して全生徒に生徒会総会資料を配布し、グループミーティングを活用して後期生徒総会を開催した。 ○ICTを活用して、履歴書のデジタル化に対応し、スムーズに応募書類を作成することができた。 ○生徒の実態に即した授業形態や授業内容を検討することができた。IC機器を活用した授業方法を検討することができた。	4.4	
		②体系的にキャリア教育を進め、進路目標の達成を目指す。	・系列の特徴を生かし、生徒個々の進路目標の実現に向けた適切な科目選択を進める。 ・産業社会と人間、総合的な探究の時間、特別活動において一貫したキャリア学習を進め、生徒の自己理解と進路意識を深めさせる。 ・教科担当者・年次団を中心に、進路意識の高揚と目標維持に努め、資格取得や外部検定試験等への挑戦を促す。	○面談週間等を通して生徒一人一人の進路に応じた科目選択が実施できた。 ○総合的な探究の時間では担任団が中心となって多くの教員が関わり指導することで豊かな人間性を育むことができた。 ○課題探究を通して、自己の問題意識を持って課題の解決策を考えることで、主体的に学習に取り組む姿勢を養うことができた。 ○地域との連携を深め、将来、社会人になるために必要な資質を身に付けることができた。 ○就業体験の指導を通して、社会人に近づく意識が向上した。	4.3	
		③生徒の個性を伸ばし、一人ひとりが活躍の場を得て輝く教育活動を推進する。	・授業や特別活動等において生徒一人一人が活躍できる場面を設けて、感性豊かで心身ともに逞しい生徒の育成を図る。 ・キャンパス制を通して、他校との相互交流のあり方を検討する。	○生徒会活動、委員会活動、部活動等を真面目に取り組んでおり、それらの活動を通して仲間づくりや仲間の大切さを学ぶ大事な機会となっている。 ○特別活動の場面で、生徒相互の多様な関係を構築することができた。 ○生徒会活動・部活動・行事を通して積極的に動ける生徒が増えた。 ○キャンパス制事業は、5月の交流学習、合同演劇鑑賞、フラワー長井線清掃ボランティアなどを実施し、交流を図ることができた。 △キャンパス制のあり方の検討をしてもよいのではないかと。	4.3	社会に送り出すために必要な力を様々な経験を積み重ねながら身に付けさせる。
		④小規模校の良さを生かし、個々に寄り添い、丁寧に細やかな教育活動を推進する。	・生徒の特性を把握・共有してその個性の伸長を図るとともに、外部専門家とも連携した個別支援の体制を充実させる。 ・就職・進学両面のきめ細やかな指導体制を構築し、生徒一人ひとりの希望の実現を目指す。 ・MC委員会で個別の状況を把握し、全職員で情報を共有し、一人ひとりに合ったよりより支援を行う。	○MC委員会では生徒の状況を共有し、個々に応じた支援を実施することができた。 ○SCや教育支援員の先生方からの情報を職員間で共有し、生徒の特性や状況を把握した上で指導に当たることができている。 ○生徒の特性理解のためSC、SSW、養護学校、医療等、外部機関や外部専門家とも連携を取りながら情報共有や個別指導を展開した。 ○教育支援員の先生方を頼りにしている生徒が多く、授業時に安心して臨むことができ、学習意欲の向上につながった。 ○就職・進学指導においては全職員の協力により生徒の希望する進路を達成することができた。	4.6	・SC、SSWの来校日程を保護者通知を学期毎行う。
3	地域と連携した特色ある教育	① 地域貢献活動や地域との連携・交流に積極的に取り組み、地域の理解と支援を得る。	・地域の行事やボランティア等の機会を創出し、地域との交流を一層推進する。	○生徒保健委員会活動の一環として地域健康活動の健紅マイレージに全年次が参加した。 ○献血広報を継続し、献血対象者の40%が希望し、当日は7名が献血を行った。 ○紅花摘み全校ボランティアやフラワー長井線車両清掃、その他のボランティア、産業まつり、元気ニコニコ健康まつり等への参加を通して、地域貢献の意識を高めることができた。 ○紅花摘みボランティア、図書委員の読み聞かせ、地域の行事、産業まつりへの参加等により、有意義な社会経験を通して地域貢献の意識を高めることができた。 △地域行事への参加をもっと促してもいいのではないかと。	4.0	
		② 学校運営協議会、荒砥高校魅力化協議会と連携し、学校の魅力化、活性化を図る。	・学校運営協議会や荒砥高校魅力化協議会において学校魅力化・活性化策を検討し、その事業を確実に実施する。具体的には、就業体験活動の充実、地域課題解決型学習の推進、中学校との交流、高校魅力化コーディネーターとの連携等により、魅力化・活性化を一層推進する。	○高校魅力化コーディネーターと連携を図り、本校の魅力を地域や近隣中学校に発信することができた。 ○小規模校サミットに3名が参加し、全国の小規模校との交流と情報を交換することができた。 ○部活動スキルアップ事業を通して、地域型総合スポーツクラブ(ロック)と連携し、中学校との交流を実施することができた。 ○就業体験活動の充実とともに、1年次において「町内産業魅力発見ツアー」を実施し、地域産業への興味関心を高め、働く意義の学びを深められた機会となった。	4.3	
		③ 中学生・保護者・地域に、教育活動の成果を積極的に情報発信する。	・1日体験入学や中学校進路学習会において、生徒を前面に出したPR活動を展開する。 ・ホームページやSNS、広報誌「かわら版」やマスコミ、コミュニティセンターや中学校でのポスター掲示等を活用し、教育活動や成果などを広く情報発信する。	○1日体験入学では生徒中心のPR活動を実施し、中学生やその保護者から高い関心が得られ、「荒砥高校に入学したい」と答えた割合は生徒が全体の6割、保護者が全体の9割と高い数値を示すことができた。 ○学校案内パンフレットやPRポスターを本校の特徴や魅力をわかりやすく伝えられるように作成した。それらを活用して近隣中学校や地域に情報を発信することができた。 ○生徒会活動を始めとする生徒の活動や本校の魅力をアップしていることでホームページやSNS等の閲覧数が増加している。	4.7	今後も継続して魅力ある広報活動に取り組んでいく。
学校関係者評価	【学校の強み】 ・1日体験入学の際に、生徒中心のPR活動については、まさにその通りです。中学生も荒砥高校の生徒がどんな生活を送り、どんな活動を行っているのか?また、どんな学びがあるのか?興味関心は非常に高いので、ぜひ、高校生がそれらを実感できるフィードバックシステムを構築していただきたい。 ・生徒主体の情報発信を今後も続けてほしいし、高校生がそれらを実感できるフィードバックシステムを構築していただきたい。 ・生徒や保護者は小規模校だからこそ荒高を選択していることが多い。そのことを踏まえ、小規模校ならではの効果や満足度を評価するような指標を具体化するとより明確に捉えられるのではないかと。保護者からの肯定的な評価は、荒砥高校に入学させたいと願った親の思いに応えている証と捉えて良いのではないかと。また、そのような評価が地域の評判として定着してきた。 ・生徒、保護者共に、個人を大事にされている自覚があり、少人数制だから学年関係なく交流ができ、教職員との関係性も良好という良い評価が多く、素晴らしい。教職員も個人を大事に丁寧な対応を心掛けており、少人数制の強みになっていると思う。互いを想っての視点が感じられる。しかし、教職員の負担につながる場面もあり、生徒への対応としてある程度一個人として自ら考え行動しそれに対してアドバイスやサポートをするということを繰り返して徐々に責任を持たせていくことが必要である。自主性を持った活動や行動を望む。小規模校の良さを生かし、弱みを極力減らす努力をお願いしたい。 【地域と連携した特色ある教育】 ・生徒の実態から社会とつながる力の育成が大切。ボランティアなど単発のものも良いが、職場体験やコラボの制作・販売のように一定期間継続して社会と関わることができ活動が効果的と感じる。 ・ボランティアや地域活動において、荒砥高校生が自分に自信を持って活動することで、地域の皆さんのイメージが変わるのではないかと。 ・学校教育の中で、外部に任せられる部分をもう少し外部(地域や自治体関係者)に依頼することを進めることはできないだろうか。自治体や地域おこし協力隊などの外部の人材を投入して、仕組みづくりを行うなどできると思う。 ・人口減少が進む中、地域コミュニティの維持も難しくなっている。地域行事への参加促進やボランティア活動について、更なる取組みを期待する。					